

彩事記

「新茶入荷」という張り紙を
街で見かけるようになった。

「夏も近づく八十八夜」
と唱歌「茶摘み」に歌われた八
十八夜は、立春から数えて八十
八日目。今年はどうう年のため
五月一日にあたる。四月から各
地で始まる茶摘みもこのころ最
盛期を迎える。

お茶と言えはまず飲んで味わうものだが、それ以外の楽しみ方が随分と広がってきた。

創業五十五年の日本茶専門店「片山園」(東京・浅草)は、全国各地のお茶とともに、三、四年前から「茶香炉ちやかうろ」を扱っている。お茶の葉をいぶして香りを楽しむ和製アロマセラピーの道具だ。

陶製のつぼ形の本体に、お茶の葉を入れた小皿をのせ、本体の中のろうそくに火をつける。「いい香りでしょう。このところ香炉の種類も増えてきました」と店主の片山直喜さん。

自宅に茶香炉がしまったまま
になっていたことを思い出し
た。試してみようと、鹿児島県
の知覧茶の新茶を買ってきた。



火をともししてしばらくすると、
新茶の青葉の香りが広がってきた。
殺風景だった部屋が一変したかのようだ。ほのかに甘い香
りも漂つた。

お茶を使った料理も広がりつつある。

研究者や関連業者で作る「お茶料理研究会」（東京）では、「食べるお茶」の普及を進めている。飲んだ後の茶殻の中にも、

ベータカロチン、食物繊維などが含まれている。捨てずに食べれば丸ごと取り入れられるというわけだ。お茶料理コンテストを毎年開いており、昨年は緑茶の粉末入りピザや、茶葉を使った春巻きなどが受賞した。

話す。

お茶は、奈良時代に留学僧らによつて中国から日本に伝えられたとも言われる。時を経て、科学的な研究が進み、体の若々しさを保つ抗酸化作用、抗菌作用なども明らかに becoming なる。

国内最大の産地・静岡県の担当部署は、その名も県農業水産部「お茶室」。「今年は四月に適度の雨と日照があり、出来は良好」という。

茶香炉にのせた青い茶葉が次第に赤みを帯びてくる。傍らで飲む新茶はまた格別だ。お茶は五感で楽しめる。

文・伊藤 剛寛
写真・鷹見 安浩
(彩事記は随時掲載します)

肩、ヒジにかけて、しびれと痛みが残る。毎日、四十分ほどの散歩をしながら、ヒジを伸ばし、腕を上げ下げしたり、ぐるぐる回したりしている。

先日、診察日、医師に「どれ、どのくらい上がるようになったかな」と、グイッと腕を上げられた。

「あーっ、痛いです!」

「これしか上がらない? ちゃんとやってる?」

「はあ……。痛くならない程度に」と白状する。

「だめだめ、それじゃあ。リハビリは痛いぐらいにや

ぶらざ

リハビリがんばろう!!!

ツクリマーク三つ、つけちゃお」と言って、カルテに「リハビリ不足!!!」と記入した。「クックッ」と、私は痛いやら、おかしいやらで泣き笑い。

脳卒中で入退院を繰り返し続けた父も、「リハビリの時間いつも看護師さんにしかられている」と母に言われ、「クックッ」と笑っていたっけ。

この次は、「よくできて
います!!!」となるように痛
くてもがんばろう。

（千葉県君津市・
中堀 啓子
55）

二人の子どもがいる二十五歳の専業主婦。夫は整理整頓ができない性格で、ポルノ雑誌をどこにでも置きっぱなしにするので困っています。

それも、数人で女性を乱暴し、しかもその女性が喜んでいようなマンガなどです。女性を性の道具としてしか見ていない暴力的なものが多いのです。膨大な量で、いくら言っても処分しません。

ポルノ雑誌 放置する夫

暴力的内容、子への影響心配

先日、四歳
の雑誌を
格形成の途
た性感覺
れないか
す。

浮気を
には問題
あるので
彼のため
が犠牲に
に嫌です
もあり、
どまって
への嫌悪
ばかりで

◇投資セミナー「女性のため
の“おカネ”上手にする 年金の話」

する。専門スタッフによる
相談会も。無料。申し込み
がきかフマタスで。三